

令和4年12月定例会一般質問

通告 8

質問 ゲートキーパー育成について

答弁 生きることの包括的な支援として推進していきたい

2 番 安藤 美佳 議員

【質問：安藤 美佳 議員】

2 番、安藤美佳です。ゲートキーパー育成についてお伺いいたします

近頃よく耳にする言葉は、また値上がりしたね、今日〇〇が特売だって、生活きつくてどうしようなど、生活するうえでの物価高騰やお金に関することです。

実際に家計を預かる主婦の方々は節約したり、仕事を増やしたりとさまざまな努力をしていますが、貯蓄がなかったり赤字が続いた場合、お金が足りないと家族に相談できない方がいます。

相談できる家族がない場合や家計を任されている責任から、配偶者やパートナー、両親に失望されたくないからこそ言えないのです。

その結果、1人で悩みを抱え込み、どうにかしようと電子マネーでの借金やキャッシングなどをしてしまい、自分1人では対処できなくなり自ら命を絶ってしまうという、とても残念なケースもあります。

昨年、ゲートキーパー養成講座を行っていただきましたが、ゲートキーパーとは身近な人の自殺の危険を示すサインに気づき、適切な支援につなげ見守る人のことです。

自分の大切な人を守るためにも1人でも多くの方を受講・養成していただき、育成という部分も強化していただきたいのです。

町民の生活を守り、安心安全に暮らせる町にするための政策や取り組みなど、今後の予定を教えてください。

【答弁：町長】

安藤議員御質問のゲートキーパーの育成について御答弁申し上げます。

平成 28 年に自殺対策基本法が改正され、市町村における自殺対策基本計画の策定が義務付けられたことから、本町では平成 31 年 3 月に令和元年度から令和 5 年度までの



5年間の中標津町生きるを支える自殺対策行動計画を策定いたしました。

その基本施策は、地域におけるネットワークの強化や、自殺対策を支える人材の育成などが掲げられております。

地域のネットワークは、それを担う人材がいて機能するものであり、自殺対策を支える人材の育成が自殺対策を推進するうえで基盤となる取り組みと考えております。

今までに、人材育成の観点から町民を対象としたゲートキーパー養成講座を令和元年度と令和3年度に実施し、延べ116名の方が受講されております。

今後は令和4年度と5年度におきましては、地域の実態、課題など情報を共有し、関係機関・団体との連携体制を構築し、地域のネットワーク体制を強化していきたいと考えており、その中で令和6年度以降の第2次中標津町生きるを支える自殺対策行動計画を策定し、関係機関・団体との連携をしていくことで、生きることの包括的な支援として推進をしていくつもりと考えておりますので、御理解を賜りますようお願いいたします。